

「普通」とは何なのだろう

市川三郷町立三珠中学校三年 内藤 弓子

世の中には、「普通ではないから」という理由だけで差別されたり、差別したりする人が多くいる。私達が思う「普通」とは、何なのだろう。

かつて、世界ではユダヤ人に対する差別があった。ユダヤ人というだけの理由で、収容所へ送られて多くの命が奪われた。私は、この出来事を知った時、同じ人間なのになぜ、殺されなければならなかったのかと悲しい気持ちになった。しかし、当時の人々にとっては当たり前のことだったのだ。

今の時代も、多くの差別がある。人種、見た目、考え方が違うだけで差別されてしまう人がある。私は最近、衝撃を受けたニュースがある。それは、アメリカで黒人男性が白人警察官に射殺された事件だ。黒人男性には何も罪はないのに、殺されてしまったのだ。私は、このニュースを見て世の中の理不尽さを感じた。なぜ、黒人だと差別されるのだろうか。白人にとっては、肌が白いことが普通である。しかし、黒人にとっては、肌が黒いことが普通なのである。だから、自分達の「普通」を全ての人の「普通」だと決めつけてはいけないと思う。

私の学校には、ハーフの生徒が多くいる。最初は、うまく話せるか不安だったけど、すぐに仲良くなることができた。それは、彼らの日本語が驚くほど上手だったからだ。たまに、ハーフだということを忘れるくらい上手だった。人一倍練習して、努力してきたことが会話を通して伝わってきた。国や人種が違って、お互いに分かち合うことができ、心はつながっているのだと感じた。他の生徒も彼らと楽しく話していて、差別することはなかった。私は、人種や見た目が違うだけで、「普通ではないから」というだけの理由で、人を差別してほしくない。学校で様々な人と出会って、そう強く思うようになった。「普通」とは、時代や環境によって変わるものであり、人それぞれ違う。だから、他の人と違っていても、自分にとっての「普通」を大切に生きてほしいと思う。

そして、一番大切なことは、人種が違っていても、同じ人間であり、命の重さは同じだということだ。人は誰でも、差別されれば悲しくなり、傷つく。その人が亡くなれば、悲しむ人が多くいる。この世に必要な人など絶対にいないと思う。私達は、同じ人間としてお互いを認め合い、命を大切にするべきで

ある。そうすれば、ユダヤ人に対する差別やアメリカで起こったような事件は、二度と起こらなくなり、多くの命を守ることができる。すべての差別をなくすことは難しいと思うけれど、より多くの人が身近な差別問題に目を向け、行動すれば、いつか差別のない社会を実現できると信じている。

また、差別をなくすためには、「自分の考えを相手に伝える」ことも重要だと思う。私は、小学生の頃は自分の意見を言うのが苦手だった。相手に伝わらなかったらどうしよう、違う意見だったら嫌だなという怖さがあったからだ。自分の意見を言えず、相手の意見に流されてしまうことが多かった。しかし、小学五年生の時、そんな自分を変える出来事が起こった。仲の良い友達が陰口を言われるようになったのだ。注意するのは、とても怖くて嫌だった。でも私は、仲の良い友達の陰口を聞きたくなかった。その子の悲しむ姿を見たくなかった。だから、勇気を出して「陰口言うのやめようよ」と言った。すると、それから陰口はなくなった。この時、自分の気持ちを伝えることで、誰かを助けることができるのだと気付いた。だから、人と違う意見でも、自分の気持ちを大切にできるようになった。時には、本当に自分の意見は正しいのかと不安になることもある。だけど、「私と小鳥と鈴と」の詩の中にもあるように、「みんな違って、みんないい」のである。人と考え方が違うことで、新たな発見があるかもしれないし、人間関係を深めることもできる。そして、みんな違う考え方を持っていて、お互いを認め合うことが「普通」になれば、考え方の違いによる差別はなくなると思う。

私達の「普通」とは、人それぞれ違うものであり、変えられるものでもある。これからは、差別のない社会を実現するために、相手にとっての「普通」を理解し、自分の気持ちも大切にしていきたい。